

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける 講座の在り方の研究Ⅱ ー幼児教育コーディネータの資質能力の検討ー

齋藤 陽子*1 久世 均*2 眞喜志 悦子*3

<概要>幼稚園教諭の資質向上を図ることをねらい「幼児教育コーディネータ養成講座」を実施した。その際に、キャリアステージに応じた資質能力を構造化し、明確にするとともに、それを基に開発実施した講座前後の資質能力を自己評価した結果、全ての資質能力の向上が見られた。
<キーワード>幼児教育コーディネータ、資質能力、キャリアステージ、インストラクショナルデザイン指導力

1. はじめに

2022年度第38回の本学会年会において「幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方の研究」を報告した。その際には、「幼児教育コーディネータ」の必要性について論考した。その必要性は、「幼児教育の社会的な課題を解決するためのキーパーソンとして、それぞれの園や教育委員会などに「幼児教育コーディネータ」を配置し、社会的課題を解決するためと考えている。そして、求める役割として、次のことを論じている。

- ①幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムとスタートカリキュラムを一体的に捉えること
- ②地域の幼児教育と小学校教育（低学年）の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進する体制を構築すること
- ③接続期に保育者が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及すること
- ④幼児期・接続期の教育の質保障のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進すること

これらの役割を果たすために身に付けるべき資質能力を明確にし、その資質能力を身に付けるためのカリキュラム開発を行い、「幼児教育コーディネータ養成講座」として実施した。

そこで、本稿では、「幼児教育コーディネータ」に必要な資質能力とはどのようなものであるかを明確にすると共に、「幼児教育コーディネータ養成講座」受講生がこの資質能力を身に付けることができたのかを明らかにすることを目的として本研究を進めた。

2. 幼児教育コーディネータ養成講座の実施

(1) 概要

①目的

地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることである。

②カリキュラム

幼稚園教諭2種免許状保有者で、かつ幼稚園教諭としての実務経験が12年目以降を対象にしたカリキュラムとしており、7科目10単位を取得できるカリキュラムとした。具体的な科目は、表1のとおりである。

表1 幼児教育コーディネータ養成講座開講科目一覧

科目区分	科目名	授業形態	時間数
領域及び保育内容の指導法に関する科目	遊びと文化Ⅰ 遊びと文化Ⅱ	講義 講義	8 8
	保育内容 (表現)	講義・ 演習	15
教育の基礎的理解に関する科目	教師論	講義	15
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法・技術	講義・ 演習	15
	幼児理解 教育相談Ⅰ	講義 講義	8 8

③講座実施方法

本講座は、令和3～5年度にわたり文部科学省からの委託事業として実施しており、その委託事業として求められていることとし

*1 Saito, Yoko: 岐阜女子大学 e-mail= youko@gijodai.ac.jp

*2 Kuze, Hitoshi: 岐阜女子大学

*3 Makishi, Etsuko: 岐阜女子大学

- て2つの事柄がある。「免許法認定講習等の開発・実施」と「新たな教師の学び（オンライン等）の開発」である。そのために、
- ア. 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
 - イ. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化
 - ウ. 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選
 - エ. 「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施（幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設）

を行うこととしている。

特にア・エにかかわり、本講座は「ハイブリッド型講座」として実施している。つまり、「対面とe-Learning」を活用した学びとを組み合わせた学び方である。

3. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

表2 幼児教育コーディネータに必要な資質能力（一部抜粋）

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン 研修成果の評価 ワークショップ	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

表3 科目毎の幼児教育コーディネータの資質能力（一部抜粋）

科目名	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力
教育の方法・技術	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。 (7)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (8)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

4. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の変化

幼児教育コーディネータとして求められる資質能力をキャリアステージに対応して考案し、講座の前後で受講生が5段階の自己評価を行った（表4）。インストラクショナルデザイン指導力は全ての項目において、講座後には身に付いていると感じている受講生が多いことが分かった。他のカテゴリーにおいても同様に全ての項目において事後の方が、評価が高い結

岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）に、本学独自に設定した資質・能力を加えた幼児教育コーディネータに必要な資質・能力を次のように定めた。

- A) 保育・・・保育構想，保育実践，評価改善
- B) 教育環境の創造・・・幼児理解，生活の展開，発達の課題
- C) 経営・分掌・・・学級・学年・園経営，連携・協働，危機管理
- D) 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応
- E) ICTや情報・教育データの利活用
- F) インストラクショナルデザイン指導力(独自)

これらのカテゴリーに対して、幼児教育コーディネータに必要な資質能力を表2のようにまとめた。ここでは、本学独自の観点のFを例として示す。加えて、これらの資質能力を科目に対応し整理した結果を表3に示す。例として、教育の方法・技術を示す。

果となった。

表4 資質能力の変化～インストラクショナルデザイン指導力～

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
事前	2.2	2.2	2.0	2.4	2.2	1.9
事後	3.7	3.8	3.9	3.9	3.7	3.5

5. おわりに

今後も講座の実施を行い、資質能力をより豊かに身に付ける新たな学びの方法を模索していきたい。

【謝辞】関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。